

インタラクティブ・マルチメディア・インスタレーション "森海" (SHIN-KAI)

概要

タイトル「森海(しんかい)」。展示空間に構築したCG/映像/サウンド等のマルチメディア空間が、来場者の移動をセンシングすることによりインタラクティブ(対話的)に変容する「不思議空間」を構成します。学生と教員の共同作業(コラボレーション)による作品創作の生きた実例紹介です。

コラボレーション・クリエイター

技術造形学科 教員 李恩沃・佐藤聖徳・長嶋洋一
技術造形学科 学生 大山真澄・加藤美咲・川崎真澄・北嶋めぐみ・林文恵

作品解説

小講義室を専用の展示空間として使用し、室内には8台の大型プラズマディスプレイとスピーカ群により、常時、複数系列からなる映像/サウンドがライブ生成されます。来場者が経路に従ってこれらを視聴しながら歩くと、オブジェとして制作・設置された複数の赤外線センサによってその動きが検出されます。この情報はアルゴリズム環境"MAX"によってプログラミング(創作)された処理系に与えられ、CCDカメラからのライブ映像、あらかじめ制作したムービー・CG画像、さらにサウンドをライブ制御します。来場者の動きに対応してマルチメディア空間は刻々とその場限りの映像とサウンドを生成し、ビデオやDVDのように固定された映像・音響を「単純再生」するのとは異なり、その場に居合わせた者のみが体験できる、参加型のインスタレーション作品です。

制作の内容

CG制作：タイトルイメージから静止画CGを各種コンピュータにより多数、素材として制作
ムービー制作：静止画CG素材を時間的に変化するムービーとして再構成
ビデオ編集：ムービー、静止画、森林公園ロケ映像などの画像部分をビデオに編集
音響制作(自動生成BGM)：背景サウンドとして連続的にライブ生成するパートの作曲
音響制作(センサ対応サウンド)：センサのイベントに対応して生成されるサウンドの作曲
オブジェ制作：赤外線センサを固定するためのオブジェの制作、デコレーション
システム(ハード)制作：センサ系情報からMAX系のためのMIDIに変換する専用装置の開発
ソフト(MAXアルゴリズム)制作：システム全体の動作を記述するアルゴリズムのプログラミング
[基本的に映像素材は全て学生による制作。アドバイザー/共同作家として、李(CG)、佐藤(オブジェ)、長嶋(システム/音響/MAX)がコラボレーションに参加]

